## 編集後記

“ミニバラ”№4をお送りします。今号の証しの欄には、枝松なつ代姉より御投稿を頂きました。ご主人との出会いと別れを通して、信仰を得、又信仰を深めてこられた、同姉のこれまでの歩みに、人知を遥かに越えた、神の行き届いたお計らいを感じ、誰もが感嘆されるのではないでしょうか。

坂本雅美姉からは、チュニジアから近況をお寄せ頂きました。原稿も写真も、北アフリカのチュニジアからでも、E メールで即時に届くのですから、本当に便利な世の中になったものだと、つくづく思います。チュニジアは、今はイスラム圏の中にありますが、西方教会最大の教父、アウレリュウス・アウグスティヌスは、昔のカルタゴ、今のチュニジアの西方に位置したタガステの出身で、父親はローマ人の血を引いていたと言いますが、母親のモニカは土地の人であったようです。アウグスティヌスは生涯郷里に近いヒッポで主教として、教会に仕えました。そんなことを思うと、チュニジアが急に身近かな所に思われてまいります。

ドイツのチュービンゲンにあるアルベルト・シュヴァイツァー教会から、ニキシン牧師の手紙と共に、講壇用のローソクが届きました。もう今年は届かないのではないか、と半ば諦めていただけに、喜びは倍化しました。手紙には、「平和のしるしとして、私たちの教会から、あなた方の教会へ、新しい講壇用のローソクを贈ります」、と認められていました。この灯火は、決して消さぬよう、大切に点し続けてゆきたいと思います。

少し前に、福山市で、新種のミニバラが開発されたと報じられました。面白いのは、その名前です。一つは「アハバー」、もう一つは「ブラハー」と言うのですが、いずれも旧約聖書の原語、ヘブル語で、「アハバー」は“愛”、「ブラハー」は“祝福”を意味します。誰が付けたのか、洒落た名を付ける人がいるものだと、感心しました。**(三輪恭嗣)**